

科 目 名

ドイツ語Ⅱ German II

2年 後期 2単位 選択

植 木 隆 俊

概 要

ドイツ語の授業では現代標準ドイツ語の理解と運用の基本を教え、ドイツ語Ⅰ・Ⅱのクラスではドイツ語の文法と読解の基本を教える。ドイツ語Ⅱはドイツ語Ⅰの続きであって、ドイツ語Ⅰ（2年次前期開講）とドイツ語Ⅱ（2年次後期開講）によってドイツ語文法の基本を一通り学習することになるので、ドイツ語の習得を志す人は、継続的に受講することが望ましい。

目 標

ドイツ語文法の学習によって独和辞典を利用出来るようにし、ドイツ語の初歩的な文章を読み解くことが出来るようにする。

授業計画

テ ー マ	内 容
① Lek. 7 Ich kann vier Wochen in Österreich bleiben.	話法の助動詞＋不定詞、未来の助動詞＋不定詞
② Lek. 8 Nimmt er auch an der Sitzung teil?	分離動詞、再帰代名詞、再帰動詞
③ Lek. 9 Mein Freund fuhr gestern nach Hamburg.	動詞の三基本形（不定詞、過去、過去分詞）
④	過去形、従属文（副文）の定動詞は文末位置
⑤ Lek. 10 Ich habe heute Morgen bis 9 Uhr geschlafen.	完了形の助動詞（haben, sein）＋過去分詞
⑥	現在完了形、過去完了形
⑦ Lek. 11 Wer ist die Frau, die am Fenster Kaffee trinkt?	先行詞、関係代名詞、関係文の定動詞も文末
⑧	不定関係代名詞
⑨ Lek. 12 Der Spiegel wird jeden Morgen geputzt.	受動態の助動詞（werden）＋過去分詞
⑩	自動詞の受動態、状態受動、zu＋不定詞
⑪ Lek. 13 Meine jüngere Schwester singt schöner als ich.	比較構文、現在分詞、受動的表現
⑫ Lek. 14 Wenn ich genug Geld hätte, würde ich mir	接続法第1式、間接話法
⑬ einen Wohnwagen kaufen.	接続法第2式、非現実話法
⑭ 数の表現	基数、序数、西暦年と時刻の表現
⑮ 期末試験	

授業方法

講義と演習を行う。

学習達成度の評価

試験による。

評価方法

期末試験による（不合格者には再試を行う。但し、不合格者少数の場合には行わないことがある。）

教科書（ドイツ語Ⅰの教科書を継続使用する）

高橋・城間 著『おしゃれなドイツ語（最旬版）』（朝日出版社）

履修上の注意

- ① 独和辞典を検索するときの注意点を授業中に教える。授業には教科書と共に辞典も持参すること（教科書と辞典は前期と同じものを継続使用する）。
- ② 毎回の授業では、前回の既習事項の復習に30分、当日の新出事項の学習に60分を予定している。より良い理解と効果的な学習のために、受講者は復習・予習に努めること。
- ③ ドイツ語Ⅰの知識がドイツ語Ⅱの学習の前提であることに注意すること。また、ドイツ語Ⅰ・Ⅱの知識がドイツ語Ⅲ・Ⅳ（3年次開講）の学習の前提であることに注意すること。

科 目 名
ドイツ語Ⅱ German II

2年 後期 2単位 選択

福 山 洋

概 要

ドイツ語Ⅰの続きとして、ドイツ語Ⅱでも現代標準ドイツ語への入門となるようなドイツ語理解の基本を学ぶ。現代標準ドイツ語の全体像を得るためには前期（ドイツ語Ⅰ）・後期（ドイツ語Ⅱ）の1年間が必要であるため、前・後期とも継続して受講することが望ましい。

学習目標

1. 前期のドイツ語Ⅰに引き続き、現代標準ドイツ語の理解と運用のための基礎を作る。
2. 国際人として生きるための基本的な姿勢、国際理解・異文化理解の姿勢を養う。

授業計画

テ ー マ	内 容
1. オリエンテーション	後期授業の全般的な説明を行う。
2. 形容詞の格変化	形容詞の使用上の特性を学ぶ。
3. 形容詞の名詞化	形容詞から名詞を作るときの注意点について学ぶ。
4. 動詞の3基本形	現在・過去・過去分詞の特徴を学ぶ。
5. 過去形	過去概念。
6. 現在完了	完了の時間概念を考え、その表現方法を学ぶ。
7. 過去完了	完了の時間概念を考え、その表現方法を学ぶ。
8. 定関係代名詞	関係代名詞は、接続詞・代名詞・形容詞の役割を同時に演じる。
9. 不定関係代名詞	先行詞がない関係代名詞。
10. 形容詞の比較	色々なものを比べる表現方法を学ぶ。
11. 現在分詞	現在分詞の作り方と使用法を学ぶ。
12. zu 不定詞	英語の to 不定詞を参考にすれば理解の助けになる。
13. 受動	受身の文章の深層心理。
14. 接続法・間接話法	他者の発言を引用する表現方法。
15. 接続法・非現実話法	「もし……だったら……」とか「あの時……しておけば」といった仮定表現。

授業方法

講義と演習を行う。

評価方法

主として試験による。平常点も加味する。

教 材

教科書と独和辞典は前期と同じものを使用する。

履修上の注意

学生個人が辞書を検索しながら、与えられたテキストを読解できるようになることが当面の目標である。授業には、教科書と共に辞書も持参すること。